



本町の将来を担う子どもたちを
誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びの実現

GIGAスクール構想について

本町の児童・生徒約1300人全員へタブレット型パソコンを配置する、1人1台端末整備と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、新しい時代に必要となる資質と能力を育みます。



※現在、国の助成を受けて、令和3年度からのスタートに向けて準備を進めています。

～1人1台端末環境の整備について～

現在、スマートフォンなどを使用し、動画共有サイトを見たり、インターネットでショッピングをすることが、当たり前の日常となっています。これから生きる子どもたちは、今以上に一層膨大な情報や技術を使いこなしていかなければなりません。さらに未知の問題を、情報や技術そのものを活用し、解決していくことが求められます。

文部科学省では、これらを「情報活用能力」と位置付け「言語能力」「問題発見、解決能力」とともに「学習の基盤となる資質、能力」としています。その力を身に付けるツールとして全児童生徒にタブレット型パソコンを整備し、教育に活用していきます。また、今後は学力調査をCBT化（紙ではなく、コンピュータベースの回答）する予定であり、デジタル教科書の導入が進められることから「1人1台端末環境」が必要となります。

～高速通信ネットワーク環境の整備について～

本町では光ファイバーの整備が全地域に及んでいません。未整備学校区である中西別、中春別、上春別、上風連の地域を、令和3年度中に町として整備していく予定です。それまでは、学校の環境に応じて、携帯電話の通信回線（LTE回線）を使用し補います。

さらに、来年度1学期の状況を踏まえ、家庭への持ち帰りも検討します。Wi-Fi環境等がない家庭については、国の方針に基づき、就学にかかわる援助を受けているご家庭に限り、ポータブルWi-Fiの貸し出しを検討しています。

～パソコンはノートや鉛筆と同じです～

端末を持ち帰った際の学習に当たり、機器の電気使用料や通信費がかかる他、通信環境によっては、Wi-Fi機器の購入等が必要になりますが、その費用は各家庭のご負担となります。端末は、ご家庭で購入していただいている子どもたちが普段使う「ノートや鉛筆」と同様の位置付けとなります。ご理解のほどお願いいたします。



今後の学習の姿「学びのイノベーション」実践研究報告書

別海町教育委員会 内線3503・3614